

辺野古新基地建設を止めよう！ 琉球弧の戦場化を許すな！

琉球弧を再び戦場にさせない！11.6 横浜集会へ！

- ◆日 時 11月6日(木) 18時半～20時半
- ◆会 場 横浜市技能文化会館 2階多目的ホール(JR 関内駅徒歩5分)
- ◆沖縄からの訴え: 高良 沙哉さん(参議院議員) ◆辺野古の現場から(映像上映)
- ◆主 催 島ぐるみ会議と神奈川を結ぶ会 ◆資料代 500円(学生無料)
- ◆協 賛 神奈川平和運動センター/基地撤去をめざす県央共闘会議

■7/20 参議院選挙沖縄選挙区は、オール沖縄推薦の高良沙哉さんが自公候補を破り初当選。8/4の防衛省抗議行動に、伊波洋一さんと共に駆け付けた(下の写真)。

■8/5 沖縄防衛局は「日曜日、祝日も工事をする」と表明、工事の遅れに焦りを募らす。軟弱地盤改良船(SCP 船)は台風1号が発生した6月上旬から3か月以上も避難し大浦湾から姿を消している(2頁)。

■昨年6月の安和栈橋ゲート前の死傷事故の被害者を加害者扱い!? 8/6、8/8に沖縄県警が「事情聴取」の暴挙!(2頁)

■8/7 芥川賞作家の目取真俊さんの自宅が家宅捜索を受けた。辺野古美謝川水路切替工事の現場のフェンスを壊した「器物損壊容疑」。しかしこのフェンスは防衛局がメンテナンスを怠りボロボロに老朽化しており、明らかに辺野古反対運動潰しの不当弾圧。「器物損壊」と関係のないPCやスマホ、wifi ルータまで押収された。

■8/16 米兵の事件・事故防止を目的とした4回目の日米合同パトロールで飲酒禁止時間帯に飲酒していた米兵9人が米軍により拘束され、3人が逮捕された。基地外での米軍の警察権行使は、日米地位協定上も県警との連携が必要だが、報道によると米軍は県警に連絡もしなかった。

■8/17 石垣市長選は現職の中山が再選。市長自身の公文書偽造による議会不信任決議可決で失職して迎えた市長選。軍事要塞化推進の中山の再選は、至極残念。

■8/18 防衛局が那覇軍港の浦添移設のア

セスメント方法書を公表。しかし米軍使用による環境影響に全く触れていない。9/1 住民説明会で疑問の声が噴出した。

■8/20 うるま市ホワイトビーチ沖で米揚陸艦が火災事故。揚陸艦に爆発物が積載されているのではないか? という市民の疑問に米軍は答えず防衛局も黙認、市民の不安は最後まで解消されなかった。

■8/24 与那国町長選は島の軍事化を推進し「一戦を交える覚悟が必要」などと公言していた糸数健一町長が敗れた(3頁)。

■沖縄戦の日本軍32軍について「偉大な貢献をなした」などと肯定的に評価していた陸自幹部候補生学校24年度沖縄戦学習資料の記述について25年度版では「偉大な貢献」を削除し県民スパイ視など軍の責任にも言及、牛島司令官の辞世の句も全文削除された。次期政権によっては揺り戻しの危険もある。日本軍に全面協力し住民の犠牲拡大を招いた島田叡知事を美化する記述は残った(9/4 報道)。

■沖縄島北谷浄水場のPFAS除去費(活性炭更新費16億円)が、防衛省が米軍基地由来を認めないため県単独で負担する懸念が浮上。基地立ち入りが実現しないのも国の責任。当然米軍が負担すべきだ。

■みなさんからの辺野古カンパはヘリ基地反対協等現地団体を通じシュワブゲート前や海上の阻止行動等に役立っています。同封の振替用紙でカンパを！
郵便口座 00210-0-2021 沖縄連続講座

辺野古通信

第86号 2025年9月21日



8/30 やまと公園に200人



8/4 防衛省抗議行動

発行: 沖縄の自立解放闘争に連帯し、反安保を闘う連続講座(沖縄講座@横浜)
沖縄講座 HP <http://www7b.biglobe.ne.jp/~okinawa-koza/> QRコード➡



どうなってるの？辺野古の〈現場〉 辺野古に行こう！9.7集会に180人



9/7（日）夜、東京・文京区民センターにて標記集会が開かれ、約180人が参加した。辺野古への基地建設を許さない実行委員会（辺野古実）と辺野古の海を土砂で埋めるな！首都圏連絡会（埋めるな連）共催。

沖縄からのオンライン報告は、まずドローンを使って辺野古埋め立て工事を監視している土木技術者の奥間政則さんが「問題だらけの辺野古新基地建設」と題して、ドローン映像や写真を駆使し工事の現況と問題点を分かりやすく解説。主催者から辺野古の工事費用についての解説があった後、三宅俊司弁護士が昨年6月の「安和事故のその後」を報告。続いて、辺野古の〈現場〉—辺野古ゲート前と海上行動、土砂搬出現場である安和栈橋、塩川、宮城島の5か所の現状が、現地行動に参加した人から写真や映像を映し出しながら報告があった。

大浦湾から消えた？軟弱地盤改良船

サンドコンパクションパイル SCP 地盤改良船6隻が、6月上旬から3か月以上もの間、大浦湾から姿を消している。地盤改良のための砂ぐいの打設は約1600本で止まったまま。台風による高波や強風を避けての避難措置と見られていたが、どうもそれだけではない

ようだ。9/11の名護市議会で、名護市の担当者が東恩納琢磨市議の質問に対して、「防衛局からの回答」として、「機器のメンテナンスのために移動させている」と答弁した（沖縄タイムス）。さらに9月中旬から打ち込んだ砂ぐいの強度を調査するボーリング調査も始まった。調査結果によっては工法の変更を迫られる事態になる可能性がある。

膨れ上がる建設予算—9300億円超えは確実

新基地建設の予算が膨れ上がっている実態が、集会でも報告された。防衛省は総工費9300億円の予算の見直しを頑なに拒んでいるが、24年度までの支出額がすでに6483億円に達している（9/7沖縄タイムス）。25年度の当初予算で1915億円（契約ベース）を計上しており、25年度末までに9300億円の8割以上の支出が見込まれる。一方で25年度末までの土砂投入量は防衛省の試算で17.5%に留まる。9300億円を大幅に超えるのは確実だ。いつまでかかるか、いくらかかるか分からない公共事業などあり得ない。即刻埋め立て工事を中止すべきだ。

許せない！安和死傷事故の被害者を加害者扱い

集会で三宅弁護士が報告したのは、昨年6/28の安和栈橋におけるダンプによる死傷事故のその後の驚くべき事態だ。事故の被害者である女性が、あるうことか加害者として「重過失致死罪」容疑で8月上旬に2回も県警による事情聴取を受けたのだ。工事の遅れに焦る防衛局の業者指導に事故の根本原因があるにもかかわらず、市民の抗議活動に責任を転嫁するものだ。8/8にオール沖縄会議は記者会見を開き、抗議声明を発した。

京大が琉球人遺骨を今帰仁村に「移管」！東大に対しても取り組み開始

5/21、京大が琉球人遺骨を沖縄の今帰仁村教育委員会に「移管」した。遺骨返還請求訴訟で昨年9月の大坂高裁判決（確定）で、返還請求は退けられたものの、判決文で「琉球民族が先住民族であること」を認定し「遺骨は故郷に帰るべき」と明記したことを受けての「移管」だが、問題はあくまで「遺骨は研究対象」との考えに固執し「埋葬せず保存」の条件をつけて元の百按司墓への返還ではなく今帰仁村教委への「移管」としたこと。訴訟の原告への連絡もなかった。墓への埋葬に向け原告らと今帰仁村教委との話し合いが続けられている。

琉球人遺骨の返還を求める会/関東では、琉球人遺骨を保管している東大に対しても情報開示と返還を求める取り組みを開始。7/25に松島泰勝さんの案内で東大校内で先住民遺骨問題に取り組む学生らと文京区の東大構内を見学・調査した。

沖縄タイムス
OKINAWA TIMES
2025年 5月30日 金曜日
令和7年 第1564号
代表 (098) 860-3000
編集 (098) 860-3674
読者センター (098) 860-3663
〒900-8175 那覇市入道地2-2-2 沖縄タイムスビル2025
www.okinawatimes.co.jp

京大、琉球の遺骨「返還」

百按司墓 今帰仁教委へ移管

埋葬せず保存条件に

京大が琉球人遺骨を沖縄の今帰仁村教育委員会に「移管」した。遺骨返還請求訴訟で昨年9月の大坂高裁判決（確定）で、返還請求は退けられたものの、判決文で「琉球民族が先住民族であること」を認定し「遺骨は故郷に帰るべき」と明記したことを受けての「移管」だが、問題はあくまで「遺骨は研究対象」との考えに固執し「埋葬せず保存」の条件をつけて元の百按司墓への返還ではなく今帰仁村教委への「移管」としたこと。訴訟の原告への連絡もなかった。墓への埋葬に向け原告らと今帰仁村教委との話し合いが続けられている。

琉球人遺骨の返還を求める会/関東では、琉球人遺骨を保管している東大に対しても情報開示と返還を求める取り組みを開始。7/25に松島泰勝さんの案内で東大校内で先住民遺骨問題に取り組む学生らと文京区の東大構内を見学・調査した。

軍事要塞化進む島々ー琉球弧の戦場化を許さない 11 月行動へ！

レゾリュート・ドラゴン25開始



日米共同実動訓練

石垣・与那国などで
ネメシス、マデイス初展開へ

9/12八重山
毎日新聞

琉球新報 2025年09月05日付 1.総合

日米島しょ防衛訓練



与那国展開規模縮小へ
ハイマースなど取りやめ

最大規模の日米共同訓練、米最新兵器が島々に展開

琉球弧の島々の軍事要塞化が進む中で、9/11 から 9/25 までの日程で日米共同実動訓練レゾリュートドラゴンが始まった。自衛隊 14000 人、米軍 5000 人参加の過去最大規模の訓練で、米軍の最新兵器(地対艦ミサイルシステム・ネメシス等)が宮古八重山諸島の島々に展開。「島の暮らしを脅かす戦争準備を許さない！」と島々で抗議行動が繰り返された。

「これ以上の自衛隊増強は御免だ」
与那国島の民意が新町長を誕生させた！

与那国島では、陸自沿岸監視隊から始まり、情報

保全隊、電子戦隊と歯止めなく増強が進む。

そんな中、8/24 町長選で自衛隊増強の推進役となってきた糸数健一氏が敗れ、「自衛隊ファーストではなく町民ファーストを」と訴えた上地常夫氏が当選。上地氏を新町長に押し上げたのは「これ以上の自衛隊増強は御免だ」という島の民意だ。町長選の結果を受けて、防衛省は今回のレゾリュートドラゴンではハイマースやオスプレイの与那国島展開を取りやめ駐屯地内での衛生訓練だけに縮小したが、新たな対空電子戦部隊やミサイル部隊の配備、新軍港建設をあきらめたわけではない。

琉球弧の戦場化を許さない 11 月行動へ！

首都圏の市民団体が共同で準備している「11 月行動」(同封のチラシ参照)では、与那国島、石垣島、宮古島、沖縄島の声を政府関係省庁に直接届け、「住民避難」という名の強制疎開の矛盾等を追及します。シンポジウムでは島々の現状について理解を深めると共に、街頭でアピールします。多くのみなさんの参加を！

◆11/14(金)14 時～省庁交渉とシンポジウム

*議員会館内(詳細未定)

◆11/15(土)14 時新宿駅東口旧アルタ前 15 時デモ

4.17 横浜集会報告

琉球弧を再び戦場にさせない！横浜集会 100 人参加

4/17(木)夕刻、横浜市技能文化会館にて「琉球弧を再び戦場にさせない！宮古島はいま...4.17 横浜集会」が開催され、会場ほぼ満席の約 100 人が参加した。主催は「島ぐるみ会議と神奈川を結ぶ会」(以下、結ぶ会)、神奈川平和運動センターと基地撤去をめざす県央共闘会議が協賛した。

主催者挨拶に立った結ぶ会の高梨晃嘉・代表世話人は「政府も自衛隊も戦争準備に勢いをつけている。宮古八重山の全島避難計画の初期計画も公表されるなど戦場化を前提とした準備が進む。沖縄を戦場にさせない取り組みをみなさんと進めたい」と訴えた。

続いて 3 月に辺野古の現地闘争に参加した結ぶ会メンバーが撮影・編集した 12 分のビデオ『辺野古レポート～2025 年 3 月』上映後、宮古島からお招きした下地茜さん(宮古島市議)が登壇。100 枚近くのスライド資料を映し出しながら約 60 分、宮古島に帰郷し陸自配備反対運動に関わった経緯から語り始め、軍事要塞化が進む宮古八重山諸島の現状と具体的な問題点を分かりやすく解説した。

2017 年宮古島帰郷ー陸自弾薬庫建設反対運動へ

「国防の空白を埋める」として琉球列島への自衛隊配備の動きが始まったのは民主党政権下の 2010 年 12



月「中期防衛力整備計画」の閣議決定から。2016 年の与那国島から陸自部隊の配備が始まった。下地さんが東京から帰郷した 2017 年 9 月に、ご両親と暮らす宮古島市城辺保良(ぐすくべぼら)地区に、陸自弾薬庫の建設計画が持ち上がった。弾薬庫建設反対の署名運動を始めたご両親と一緒に、下地さんも活動を始めた。

下地さんが国の姿勢に疑問を深めたきっかけは、2019 年 12 月に伊波洋一議員らと参議院議員会館内で防衛省職員とやり取りをしたことだった。市民 100 人が詰めかけたその交渉の場で、防衛省職員は疑問に答えず沈黙する場面が多かった。

イージスアショアとの違い

一島全域を移動して展開するから安全地帯はない！

そのころ秋田県、山口県へのイージスアショア配